

東京明生日本語学院 2024年度 自己点検・自己評価チェックリスト

理念・教育目標
〈理念・ミッション〉
<p>広く世界の青年に日本語を習得させるとともに、日本文化についての理解を深め、国際協調、国際理解の精神に則り、国際社会の発展に貢献できる人間を育成する</p>
〈教育目標〉
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の高等教育機関への進学を目指す学習者の日本語能力が進学に足るレベルになる。 ・日本社会や日本人との共生を目指し、言語習得のみならず、文化、思想、生活習慣を理解できる。
〈育成する人材像〉
<p>将来日本で活躍し、日本での共生社会を作り上げることのできる、日本語コミュニケーション能力と社会常識を備えた人材を育成していく。</p>

点検・評価項目		
1. 教育理念・目標		評価
1.1	学校の理念、目的・目標や育成する人材像が明確になっているか	A
1.2	学校の理念、目的・目標は、社会のニーズに合致したものになっているか	A
1.3	学校の理念、目的・目標は達成されているか	A
<p>国際社会の発展に貢献できる人間を育成する理念のもと、校長をまとめ役として、年2回の教職員全体会、年4回の教務会にて、理念・目標、学校の教育的役割の確認を行っている。また、教育の目標とその目標を実現するための細分化された実施項目については、前年度の結果を受けて毎年見直しを図り、学生ニーズの実態に即した内容になるよう努めている。</p>		
2. 学校運営		評価
2.1	理念や目的に沿った運営方針や事業計画が策定されているか	A
2.2	組織運営や人事、財務管理に関する規定や意思決定システムが整備されているか	A
2.3	コンプライアンス体制が整備されているか	A
<p>年度事業計画、収支予算計画は年度開始前に策定され、評議員会、理事会にかけられ承認を受けている。事業計画の遂行にあたり必要な組織体制、人事についても理事会にて確認を行っており、所轄官庁への法令に従った各種届出・申請事項は滞りなく行われている。</p>		

3. 教育活動		評価
3.1	教育理念に沿った教育課程が体系的に編成されているか	A
3.2	学生が到達すべき日本語能力の目標が明示されているか	A
3.3	成績評価や進級、修了の判定基準は明確であり、適切に運用されているか	A
3.4	教員の指導能力向上のための取り組みがされているか	B
3.5	教育課程の改善のために取り組みがなされているか	A
<p>学校長をまとめ役とし、教務主任を中心に各科目担当教員によるカリキュラム会議を9月と3月に行っており、学習状況、成績評価などの教員からの報告、また、学習者からのコメントなどからシラバスを見直し、教材の変更・開発等を行う。必要に応じてカリキュラムの立案・変更等を行っている。</p> <p>また、各日本語レベルクラスの担当の全教員が各学習者の学習の状況、成績などについて中間報告し、各学習者がそのレベルの水準を満たせるように具体的な対策について検討している</p> <p>担任と学習者による個人面談を各学期に実施しており、個別の希望に即した学習指導を行っている。</p> <p>年に2回の定期研修を含め、公開授業、研究授業を行うことで教員の指導能力向上を図っているが、外部研修への参加が不足している。</p> <p>(今後の取り組み事項)</p> <p>3.4 専任教員に対し、年1回以上の外部研修会への参加を推進する。</p>		
4. 学修成果		評価
4.1	卒業認定のための評価がなされているか	A
4.2	学習レベルの到達評価がされているか	A
4.3	学生の進路を適切に把握しているか	A
<p>年度授業終了時に全担任出席による卒業判定会議を開催し、卒業認定について認定条件の確認を行っている。また合わせて全学生の資格の取得状況、進路状況の確認を行い、次年度の目標設定について話し合われている。</p>		
5. 学生支援		評価
5.1	学習相談や進路に対する支援体制が整備されているか	A
5.2	健康管理ができているか	A
5.3	生活指導への支援体制が整備されているか	A
5.4	防災訓練や緊急時における体制が整備されているか	A
<p>クラス担任制を敷いており、学生の相談窓口を明確化している。また、生活支援担当を2名別に定め、担任と連携を図り、学習、生活の両面から学生の留学生生活をサポートしている。</p> <p>入国時、2年次に健康診断を実施するとともに、日々の授業における健康観察を怠らず、医療機関への受診が必要と認められる場合、日本語能力がまだ低い者については職員同行のもと受診を行っている。</p>		
6. 教育環境		評価
6.1	施設・設備が十分かつ安全に整備されているか	A
6.2	教材は適切か	A
6.3	学習効率を図るための環境整備がなされているか	A
<p>各種学校の設置に必要な環境設備は整っており、かつ授業外に自習できる図書室、自習室も準備されている。各教室にインターネット、モニター設備が整っており、教員が必要とする各種メディアを使用した教育が可能となっている。また、教材については毎年見直しが行われており現状の学生に適した教材の選定を行っている。</p>		

7. 入学者の募集		評価
7.1	入学者の選抜は適切に行われているか	A
7.2	入学者に対し学校の情報は正確に伝えられているか	A
7.3	授業料、教材費の金額は適切か	A
7.4	仲介手数料の金額は適切か	A
入学試験及び面接を実施し入学選抜を実施している。学校説明会を現地にて催し学校・日本での生活・必要な手続きについて説明し現地語に訳した文面にて注意事項の説明をし、応募時には説明を理解した旨の誓約書に署名を頂いている。授業料・教材費・仲介に係る手数料は学校の経費支出を考え、現状に合わせた毎年見直し設定をしている。		
8. 財務		評価
8.1	中長期的に財務基盤は安定しているか	A
8.2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	A
8.3	会計監査は行われているか	A
8.4	財務状態の公開の体制はできているか	A
学校法人設置に必要な財務基準はすべて満たしており、流動負債の2倍上の流動資産を有している。予算・収支計画は毎年度、実情に合わせた計画がなされており、評議員会、理事会の承認のもと実施されている。また、毎年度公認会計士による会計監査を実施しており、会計処理が適切である評価を受けている。財務諸表は学校事務局に備え付けており、関係各位からの請求に対し、学園の決算書及び貸借対照用の閲覧に応じている。		
9. 法令遵守		評価
9.1	各種関係法令を遵守し適切に運営されているか	B
9.2	個人情報保護のための対策をとっている。	A
9.3	自己点検の実施と改善およびその公開を適切に行っているか	A
学校運営に必要な各種法令の改定事項に関して随時確認しており、所轄官庁へ法令に遵守した届出・申請が行われている。また、各種ハラスメント、個人情報保護に関する教職員への教育に努め、相談窓口を明確化しているが、各種法令順守の教育が入社時と全大会においての年1回の読み合わせ確認のみとなっている。自己点検は毎年6月に委員会を実施し取りまとめ、7月に公開する。 (今後の取り組み事項) 9.1 各種法令関係の順守について、テーマを決め研修形式での教育を行っていく。		
10. 地域貢献・社会貢献		評価
10.1	施設を活用した社会貢献・地域貢献ができているか	B
10.2	学生のボランティア活動への支援を行っているか	C
10.3	公開講座等の取り組みを行っているか	A
在住の方に対する日本語の授業は行っているが、地域の日本語教育に対する講師の派遣、公益に供する日本語教育の提供など、地域に貢献できる取り組みを行っているものの、まだ成果は出ていない。また、学生のボランティアに関する募集依頼について担当をつけ対応しているがまだ成果は出ていない。 日本語教員に対するセミナーを年2回、毎回テーマを変え開催し、オンラインではあるが毎回200名近い参加者を出している。 今後の成果を出すために次の目標を立て、地域社会に貢献していきたい。 (今後の取り組み事項) 10.1 学生の地域に対する奉仕活動の実地（通学路の清掃活動） 10.2 各種ボランティアに関する情報を収集し、学生に告知する。担当を設置し相談窓口の明確化を図る。		

評価方法

- ・A：「達成されている」あるいは「適合している」項目。
- ・B：「一部未達成」であるが、1年を目途に達成あるいは適合が確実な項目。
- ・C：「未達成」あるいは「適合していない」項目。